**幼児礼拝10月②**

**聖書⑥：勝利した人（ヤコブとエサウ）**

今日のお話は、ヤコブとエサウです。

ヤコブとエサウは双子の男の子の兄弟です。今日のお話しの主人公は、この二人になります。

ヤコブとエサウのお父さんとお母さんはイサクとリベカです。エサウとヤコブは元気に生まれ、すくすくと育ちました。エサウがお兄さんで、ヤコブが弟です。

エサウとヤコブは双子でしたが、姿も性格も全く違いました。兄のエサウは全身が毛深く、狩りが大好きでした。弟のヤコブは穏やかな性格で、料理をしながら、お母さんの手伝いを良くしていました。二人は両親から愛されながらすくすくと成長していきました。

ある日、ヤコブがレンズ豆を煮ていると、エサウが狩りから帰ってきました。エサウはとってもお腹がすいていましたので、ヤコブが持っているおいしそうなレンズ豆を目にしたとたん、もう我慢ができなくなりました。

「ヤコブ、そのレンズ豆のあつものを食べさせてくれないか？」といいました。その時、ヤコブは「お兄さん、分りました。ただし、そのかわりに、お兄さんの持っている長子の特権を私にくれませんか？」と言いました。

長子の特権と言うのは、その家庭の「一番上のお兄さんだけがもらえる神様からのおくりもの」のことです。

エサウは、あまりにもお腹がすいていたので、このように大切なものを、レンズ豆のあつものと交換してしまったのです。それから、月日が流れました。

そして、ついに、父であるイサクが、子供に長子の特権を与える日が来たのです。本来なら、長子の特権をもらえるのは、お兄さんであるエサウでした。

しかし、そこに現れたのは、弟であるヤコブでした。なぜならば、エサウは長子の特権とレンズ豆の料理を交換してしまっていたからです。イサクは、実はすでに目が見えなくなっていました。なので、イサクは、そこにいるのが兄のエサウだと思い込み、長子の特権をそのままヤコブに与えたのです。

さて、これに腹を立てのがエサウです。

本当は自分がもらうはずだった、長子の特権が、すでに弟のヤコブが受け取っていたからです。エサウは、そのことを知り、とても激しく怒りました。ヤコブを許すことができず、「殺してやる！」とまで言いました。

エサウの怒りを知ったヤコブは、そのまま、旅に出ました。ハランという地に、ラバンおじさんがいます。エサウはラバンおじさんの家に行くことにしました。

ハランまでの道のりはとても寂しく、悲しいものでした。ヤコブは愛する家族を離れ、たった一人で旅をしていたからです。旅の途中の、ある夜、ヤコブは夢を見ました。それは、天から通るはしごを、神様の使い達が上へ上ったり下ったりする夢でした。すると、神様の声が聞こえてきました。

「私は、あなたと共にいて、どこに行くにもあなたを守り、またあなたをこの地に連れ帰るであろう。」

ヤコブははっきりと神様の声を聞いたのです。ヤコブは、「私は神様から愛されているんだ！」と思うようになり、寂しい気持ちや怖い気持ちが、なくなりました。

そして、ヤコブは、ラバンおじさんが住んでいるハランにたどり着きました。ハランでは、ヤコブは何度もラバンおじさんに騙され、いじめられ20年間もの間苦労をしました。その分、沢山の家畜や、財産を得ることが出来ました。

そして、ヤコブはエサウのいる故郷に帰ることを決意します。ヤコブはエサウと仲直りすることが神様の願いであることを知っていたからです。

ヤコブはラバンおじさんの下で一生懸命働きながら得た、全ての財産をもって、ハランの地を出発しました。

すると、旅の途中のある夜また、不思議な出来事がありました。

ヤボク川の近くを歩いていると、いきなり神様の使いが現われて、ヤコブに覆いかぶさってきたのです。ヤコブは最初何が何だかわかりませんでした。しかし、相手が神様の使いであることを知ったヤコブは「きっとこれは神様の試練だ。絶対に負けてはいけない」と思い、必死に戦いました。その戦いは一晩中続きました。そして、ついに、ヤコブは勝ったのです。

神様の使いは、ヤコブに「あなたは、名前をヤコブではなくイスラエルと言いなさい。」と言いました。イスラエルという名前は、「勝利した人」と言う意味があります。ヤコブは、神様からの試練も、あきらめずに乗り越えていきました。

そしてヤコブは、ついに、エサウのもとにたどり着きます。しかし、エサウはこの時、まだヤコブを許していませんでした。

ヤコブは、エサウのその気持ちを知っていました。なので、ヤコブは、エサウの下に行くまでに、7度も身をかがめて、お辞儀をしました。エサウお兄さんに「あなたを愛しています」と伝えたのです。そして、エサウに「エサウお兄さん、あなたの顔を見て神様の顔を見るようです。」と言いました。

最初は怒っていた、エサウでしたが、ヤコブが沢山の贈り物をしてくれたこと、何よりも、何度もお辞儀をしながら歩み寄り、最後は、自分の顔を見て「神様の顔を見るようだ」と言ってくれたことに、感動しました。そして、怒りの気持ちも全部なくなってしまいました。

そうして、ヤコブとエサウは再会を抱き合って、喜びました。

ヤコブは、神様を信じ、多くの苦労を乗り越えて、最後には、自分を殺そうとする兄弟を愛して神様を喜ばせました。

皆さんも、ヤコブのように神様を信じ、どんな大変なことがあっても勇気を持って乗り越えていく人になりましょう！